

# 乗雲

寺報  
第95号

H28.9.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県  
胎内市西栄町 2-8  
TEL0254-43-2419  
FAX0254-43-4560  
広厳寺  
住職 神田英俊

メール  
otera@kogonji.jp

心の闇を照らしませ  
いと尊きみ仏の  
誓いを冀うものはみな  
南無帰依仏と唱えよや

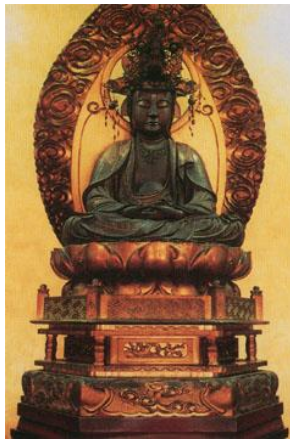
憂き世の波を乗り越えて  
浄きめぐみにゆく法の  
船に棹さすものはみな  
南無帰依法と唱えよや

悟りの岸にわたるべき  
道を伝えしもろもろの  
聖者に頼るものはみな  
南無帰依僧と唱えよや

(三宝御和讃)

梅花流詠讃歌にある歌詞です。私  
たち仏教徒はこの仏法僧の三宝(三  
つの宝)を一番のよりどころとしな  
ければなりません。まず第一に仏さ  
まに手を合わすことです。毎日のお  
勤めでご本尊さまに礼拝をいたし  
ますが、仏さまを拝むことは自分の

心の中にある仏さまを礼拝するこ  
とであり、一心に礼拝すれば、仏  
さまの心(仏心)をいただくこと  
ができます。百八歳で亡くなられ  
た永平寺の前貫首・宮崎奕保禪師  
さまは、「朝、仏壇に手を合わせる  
時には本尊様と一直線になるよう  
に真っ直ぐに線香を香炉に立て、  
そして、自分の体も真っ直ぐに整



え、自分が今人間として生きてい  
ることに対しご先祖様に感謝の言  
葉を申し上げ、三分でも五分でも  
よいから心を落ち着けて坐わりな  
さい」といつもお話をされました。  
仏さまへの礼拝が、「仏宝」です。  
法とはお釈迦さまの教えのこと

です。お釈迦さまの教えの根本は  
「諸行無常」です。最後の「説法  
である「遺教経」には、『世は皆無  
常なり、会うものは必ず離るるこ  
とあり』と説かれ、道元禪師さま  
は「学道用心集」の中で『無常を  
観ずる時、吾心の心生ぜず。名利  
の念起こらず』とお示しになられ  
ました。無常なるが故に、「法宝」  
を大切に、今日一日を精いっぱい  
生きなければなりません。

「僧宝」です。

人間は一人では生きていけませ  
ん。みんなで協力し助け合い支え  
合いながら、仏さまを信じ、その  
教えをよりどころとして、ただひ  
たすら仏の道を歩んで行きましょ  
う。そして、特別な何かを求め  
るより、「三宝に帰依して」、平凡な  
日々の暮らし、その一つひとつを  
大切に丁寧に過ごしていくときに  
心の平安が訪れます。

真心込めて一心に、「南無帰依  
仏、南無帰依法、南無帰依僧」と  
念じましょう。

## 平成二十八年年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十七年
三回忌	平成二十六年
七回忌	平成二十二年
十三回忌	平成十六年
十七回忌	平成十二年
二十三回忌	平成六年
二十七回忌	平成二年
三十三回忌	昭和五十九年
五十回忌	昭和四十二年
百回忌	大正六年

▼今年(平成二十八年)の年回忌  
表です。正当の各家には昨年十一  
月に通知しています。

▼日曜・祝日のご法事の申し込み  
はお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味  
する言葉で、亡くなってからちよ  
うど一めぐりした翌年のその日  
を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くな  
られた日を最初の忌日と考えて、  
三回目の忌日が「三回忌」となる。  
以降は丸六年目が七回忌、丸十二  
年目が十三回忌となる。